

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	県営中山間総合整備事業(竜東飯喬地区)	会計	一般会計	事業No.	385	施策順No.	11-010	
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-1-7-22-1			
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	農業課			
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	12	終了	22

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	竜東4地区(下久堅、上久堅、千代、龍江)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		竜東4地区人口	10074	9944	9837	9770		
	意図	農業生産基盤及び農村生活基盤の充実を図る						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	事業費ベースの整備率(%)=整備済事業費/計画事業費(%) ※情報基盤施設整備を除く	80.2	97.1	99.8	100	100		A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	集落道路整備により集落機能の維持確保が図られた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	H12年5月に飯田市と喬木村の広域連携型として事業採択。22年度に事業完了予定。 ○全体計画事業費 1,700,344千円(情報基盤施設整備事業を除く 797,962千円) ○負担割合 国55%、県30%、市10%(15%)、地元5%(0%) ※()内は道水路整備事業に摘要 ○計画事業内容 農業用排水施設(2工区)、農道整備(2工区)、農業集落道整備(1工区)、ほ場整備(3工区)、動物誘導施設(竜東全域)、堆肥センター(1施設)、活性化施設(1施設)、情報基盤施設整備(竜東全域)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	竜東飯喬地区事業(事業推進、負担金支出) 集落道整備(千代)	付帯工	一式
23年度実施計画			

3 事業コスト

事業費	(千円)				特定財源内訳、補足事項
		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	
特定財源	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
一般財源	計(A)	750	750	0	
	正規職員所要時間				
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		0		
	トータルコスト A+B		750		

4 事業に対する市民や議会の意見

竜東総合開発整備推進委員会及び施工計画箇所のみまちづくり委員会から事業の早期完了を求める要望を受けてきた経緯があるが、現在は22年度の事業完了の目処が立ってきている。

**5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】**

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

**6 前期4年間の取組評価(総括)**

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	既存農業者の産出額(農業):億円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	農道や農業用水路など農業基盤整備と集落道路や活性化施設等の農村環境整備について総合的に行うことにより集落機能の維持確保が図られ、活力ある農業・農村振興に繋がっている。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	事業の計画、実施が順調に進む様に、地元並びに施工主体の長野県や関係機関との調整を年蜜に実施し進めた。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	計画段階から地元並びに地権者等との調整を行い、効率効果的な事業の実施に努め事業費の削減に努めた。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	4地区の総合的な整備事業であり公共性も高く行政関与は妥当である。受益者負担は、活性化施設、ほ場整備は受益が一定地域に特定されるため負担を求め、公共性のある道水路施設は行政責任で実施した。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	農業生産や農村生活の基盤となる道水路等について行政が主体となり整備を行った。活性化施設やほ場整備等について、農産物加工やツーリズム受け入れ等の地域づくりの更なる拠点となるよう、また、生産性が向上するよう運営主体である受益団体と協議を重ね整備した。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	農道や農業用水路、ほ場整備などの農業基盤整備と集落道路や活性化施設等の農村環境整備について総合的に進めることにより、中山間地域における集落機能の維持確保が図られた。		
	後期に向けた課題			

**7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認**

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

**8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画**

<input checked="" type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
--	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------